

新 業界トップに聞く

61



KLASS 株式会社
代表取締役社長
頃安雅樹 氏

自動壁紙糊付機、カ
ーテン形態安定加工機、
七十五周年となる今年
十月に再び社名を「K
LASS」に変え、さ
らなる発展を目指して
新たなスタートを切っ
た。

昭和二十三年十月に
「(株)龍野ギヤ製作所」
として創業した同社は、
昭和四十一年に「極
東産機」に社名を変
更、平成三十年九月の
JASDAQ(現・東
証スタンダード市場)

昭和四十一年に「極
東産機」に社名を変
更、平成三十年九月の
JASDAQ(現・東
証スタンダード市場)

昭和四十一年に「極
東産機」に社名を変
更、平成三十年九月の
JASDAQ(現・東
証スタンダード市場)



本社前にて

昭和四十一年に社名を
「極東産機」に変えま
したが、「極東」には
グローバルな視野を持
つ、「産機」には産業
機械分野への進出を目
指すという意味が込め
られていました。社名
変更以降、昭和四十六
年に自動壁紙糊付機を
開発、昭和五十六年に
はコンピュータ式置
製造システムを開発す
るなど、まさに「極東
産機」という社名と
もに発展してきたわけ
です。

昭和四十一年に社名を
「極東産機」に変えま
したが、「極東」には
グローバルな視野を持
つ、「産機」には産業
機械分野への進出を目
指すという意味が込め
られていました。社名
変更以降、昭和四十六
年に自動壁紙糊付機を
開発、昭和五十六年に
はコンピュータ式置
製造システムを開発す
るなど、まさに「極東
産機」という社名と
もに発展してきたわけ
です。

昭和四十一年に社名を
「極東産機」に変えま
したが、「極東」には
グローバルな視野を持
つ、「産機」には産業
機械分野への進出を目
指すという意味が込め
られていました。社名
変更以降、昭和四十六
年に自動壁紙糊付機を
開発、昭和五十六年に
はコンピュータ式置
製造システムを開発す
るなど、まさに「極東
産機」という社名と
もに発展してきたわけ
です。

したが、このときは会
社の将来の方向性につ
いて十分に議論したわ
けではなく、「これだ！」
と心に響く社名案に出
会うには至らなかつた
のがその理由です。
それから三十年以上
の月日が経過して今回
の社名変更に至ったわ
けですが、きっかけは
頃安憲司総合企画室長
をはじめとする若手社
員で組織した委員会
でのディスカッション
です。

この委員会では創業
八十年、さらには百年
を見据えたC1の再構
築を議論していました。
創業百年を迎えるため
にはさらなる事業の発
展が不可欠です。それ
には産業機械の枠を超
えて、社会が抱える諸
問題をハードとソフト
の両面から解決できる
会社になる必要があり
ます。そうした議論の
中で、これから目指す
べき事業内容にふさわ
しい社名に変更したい
という機運が生まれて
きたんですね。

昭和四十一年に社名を
「極東産機」に変えま
したが、「極東」には
グローバルな視野を持
つ、「産機」には産業
機械分野への進出を目
指すという意味が込め
られていました。社名
変更以降、昭和四十六
年に自動壁紙糊付機を
開発、昭和五十六年に
はコンピュータ式置
製造システムを開発す
るなど、まさに「極東
産機」という社名と
もに発展してきたわけ
です。



「中期ビジョン」で
は2・4次産業の展開
を掲げました。2・4
次産業とは一橋大学名
誉教授の伊丹敬之先生
が提唱しておられ、こ
れからの製造業(二次
産業)はサービス業(三
次産業)的な要素を加
えていかななくてはな
らない。けれども三次産
業まで行ってしまうの
ではなく、「二・四」とど
まらすべきだという考
えです。つまりサービ
ス業的な要素で拡大す
べきだが、あくまで製
造業としての立ち位置
を忘れてはならないと
いう意味です。

新社名「KLASS」に込められた思いとは

「百年企業」目指し事業領域の拡大へ

振り返れば、当社は
自動壁紙糊付機の開
発・販売によって内装
市場にお客様を創出し
ました。そのネットワ
ーク上に工具や副資材、
さらに新たな機械を販
売していく。置市場も
同様です。このお客様
とのネットワークを活
用し別のサービスを提
供することで当社は発
展してきました。これ
こそが2・4次産業で
あり、これをより進化
させていくことが当社
の方向性である、とい
うことを確信するに至
りました。

昭和四十一年に社名を
「極東産機」に変えま
したが、「極東」には
グローバルな視野を持
つ、「産機」には産業
機械分野への進出を目
指すという意味が込め
られていました。社名
変更以降、昭和四十六
年に自動壁紙糊付機を
開発、昭和五十六年に
はコンピュータ式置
製造システムを開発す
るなど、まさに「極東
産機」という社名と
もに発展してきたわけ
です。

「中期ビジョン」で
は2・4次産業の展開
を掲げました。2・4
次産業とは一橋大学名
誉教授の伊丹敬之先生
が提唱しておられ、こ
れからの製造業(二次
産業)はサービス業(三
次産業)的な要素を加
えていかななくてはな
らない。けれども三次産
業まで行ってしまうの
ではなく、「二・四」とど
まらすべきだという考
えです。つまりサービ
ス業的な要素で拡大す
べきだが、あくまで製
造業としての立ち位置
を忘れてはならないと
いう意味です。

「A」は「Action」
「Achieve」な
ども含んでいます。さ
らに言えば、私自身も
自分なりの「KLASS
S」への思いを込めて
います。例えば「Li
fe」を生命と捉えれ
ば医療分野にまで事業
領域を広げることがで
きるでしょう。

昭和四十一年に社名を
「極東産機」に変えま
したが、「極東」には
グローバルな視野を持
つ、「産機」には産業
機械分野への進出を目
指すという意味が込め
られていました。社名
変更以降、昭和四十六
年に自動壁紙糊付機を
開発、昭和五十六年に
はコンピュータ式置
製造システムを開発す
るなど、まさに「極東
産機」という社名と
もに発展してきたわけ
です。

聞き手・善明剛史